

うえだ 環境市民会議 News

第40号

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行:うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話:0268-23-5120

FAX:0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

うえだ環境市民会議 10周年記念事業 「地球の未来を語ろう! 環境を良くしたいひと大集合」特集



▲田中優氏の基調講演

うえだ環境市民会議

議長 安井啓子

うえだ環境市民会議は、上田市の環境基本計画に基づき、市民・事業者・行政が協働して環境保全活動に取り組み「豊かな自然と共生するまち」をめざし、上田市の呼びかけに応じた市民を中心に2003年9月に設立されました。2013年に10周年を迎えるにあたり「地球の未来を語ろう！

環境を良くしたいひと大集合」を12月7日に塩田公民館大ホールにて開催しました。

第1部では環境・経済・平和など幅広い分野の活動に参加し、日本を代表するオピニオン・リーダーの一人でもある田中優氏を講師に「地球を救う未来のつくり方」



▲うえだ環境市民会議議長 安井氏のご挨拶

と題して講演していただきました。傍観者や評論家ではなく、自らプレイヤーとして行動することで持続可能な未来がひらかれるという言葉が印象に残りました。

第2部では、市内で里山や水辺の環境保全や子どもたちの環境教育、動物保護、自然エネルギーシフトなど様々な環境保全活動に取り組んでおられる15団体から活動を紹介していただきました。

第3部では参加者交流会としてコーヒーやお茶を飲みながら自由に交流しました。地域で地道に活動されている方たちのお話を聞く機会は、これまでであるようであまりなかったのととても新鮮だったとの感想も頂きました。

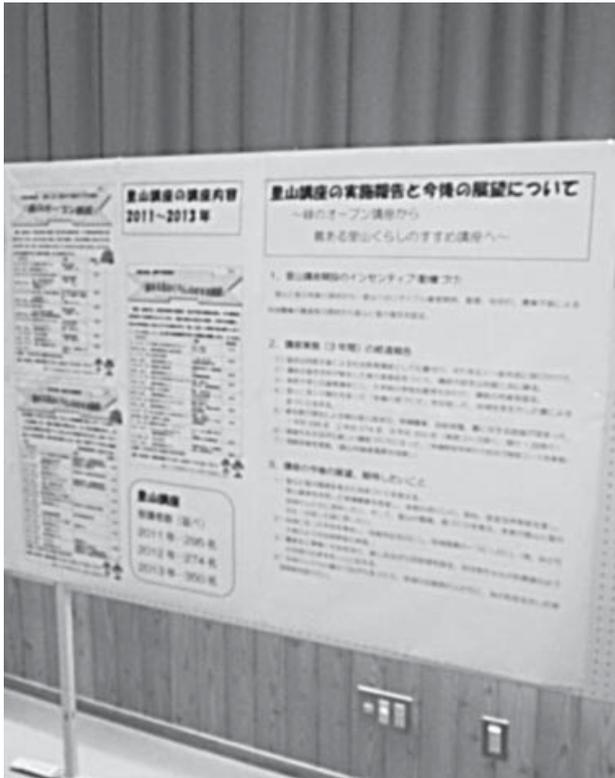
今回の出会いと繋がりを今後の活動に活かしていけたらと思っています。参加してくださったみな様、活動報告してくださった団体のみな様、ご協力ありがとうございました。

農ある里山暮らしのすすめ講座

宮沢正和

今回のうえだ環境市民会議10周年記念企画が開催できたことに、まず敬意を表します。市内の環境を語る団体が一堂に会し、15団体もの多くが発表された意義は大きかったと思います。

地域から自然環境を考えている人たちが、住みやすい地域環境づくりを志している人たちの活動は、上田市が広域化された中で互いが見えにくくなり、しかも地味な活動ゆえ市民に伝わりにくい側面は



▲農ある里山暮らしのすすめ講座の展示

否めないと思います。そんな中で一堂が集まり、各々の活動を語り合い学びあう事は、横のつながりが希薄な現代、格好の場であったと思います。

前段の田中優さんの問題提起の講演会は目から鱗の内容でした。石油社会を形成しているピラミッドの頂点の人たちの独占により、働かされている人を作り、それが環境悪化に繋がっている。人間らしい環境の中で生きるにはまず自然エネルギー、食糧の自給を基本に考え、ピラミッドの底辺の人たちが楽しく、自発的にしくみを変えていくことであると。

本来の市民運動が苦手の私たちが、互いの活動のつながりを認め合いながら楽しい交流の場をつくり、市民によりよい環境を提示するためにも、発展的な継続を望みます。

ヤマンバの会

事務局長 村山 隆

信州上田に地湧した環境市民団体の成長ぶりが実感できて地域に誇りを覚えました。

私たちの会の創立はうえだ環境市民会議結成の10年前です。当時は「里山」なる語彙が無かった(「広辞苑」も)ので、まさに苦闘の実践でした。巷では「自然保護」とは希少種に限られ、裏山(里山)の大切さなどは全く論議の対象外でしたので孤立を余儀なくされもしました。しかし、「時代」は変わるものなのですね！

概観して上田は先陣を切っている感じがしました。その意味で、各種団体による展示・活動報告は大変に参考になりました。あわよくば、せっかくの展示ですから、もう少し時間に余裕があっても良かったと思います。

恐らく今後、環境世紀を反映して環境市民運動が活発化することは必然です。それ



▲ヤマンバの会の展示

が行政をも左右する位の影響力を持つでしょうから、地域社会を規定する『市民組織のあり方』が真剣に論議されなければなりません。詰まりは市民団体の「自立(律)性」と、その「質」が問われるということなのです。

NPO 法人やまぼうし自然学校

代表理事 加々美貴代

NPO 法人やまぼうし自然学校は 1996 年に任意団体として活動を始め、2000 年に NPO の認証を受け、現在に至っています。今回の参加のきっかけは、平成 24 年に「信州エコ大賞」を頂いたことにあります。そのご縁で今年、長野県環境保全協会 上小支部総会で活動紹介をさせて頂きました。菅平高原を中心に活動をしているので、上田市内の皆さんに私たちのことを知って



▲ NPO 法人やまぼうし自然学校の展示

もらう機会が少ないのが実情です。そんな中で、今回の市民大集合をご紹介いただき、参加させて頂きました。その中で「やまぼうしさんは名前は知っているけど、何をしているのか知らなかった」という声を耳にし、まだまだ種まきが足りないと感じました。「環境」をキーワードに各地域で様々な活動をしている皆さんとの交流は、活動のヒントやアイデアを得るためにも大切な時間だと感じました。また、私たちを知ってもらい、応援団になってもらうこと、逆に皆さんの応援団になり、お互いにお互いの活動を支えていくことも大切だと感じました。

今回の大集合で残念だと感じたのは、若い人たちの参加が少なかったことです。今後は幅広い世代みんな「環」をキーワードに語り合えたらいいなと感じました。

地球生物会議

竹内紀子

地球生物会議という動物保護団体の一員として参加させて頂きました。

安井啓子さんから、各団体の活動報告を計画中と聞き、頼まれもしないのに「私もやらせてください、やります」と宣言したのは 10 月 21 日。ここ最近、あちこちのマルシェ風イベントに出店してお菓子やご飯の販売などしてますが、10 月 14 日の佐久の「森のつむぎ市」で被災動物のパネルが展示されていたのを見て、食べ物売っているだけじゃしょうがない、私も社会的・倫理的にもっと意義のあることをしよう、



▲地球生物会議 竹内氏の発表

動物のためにちゃんと何かしよう、と思い始めていたときでした。直にアピールできる機会は貴重です。報告するほど大した活動はしていませんし、人前でしゃべることなど苦手な私ですが、まだ当分先だからなんとかかなるだろうと思っていました。ところが、あっという間に時間は流れ、結局ほとんど準備できませんでした。しかも田中優さんの前で発表するのですから、緊張します。でも、齢をとって図太くなった神経をたよりに、一番伝えたいこととお話したつもりです。

市民活動でよく言われる「ひとりでも多くの人にこのことを伝えたい」という言葉は、私にはただの常套文句ではありません。犬や猫などの家庭動物の殺処分問題には関心を寄せてくれる人は多いかもしれませんが、マイナーな実験動物や畜産動物に関しては、パネル展を丸1日やって、ひとり心を動かしてくれたら、それでやった意味が

あったと満足するべきです。無力感にとられることなく、根気よく続けていくことが肝要ですよ。

また、こういう機会をいただけたらありがたいです。準備して下さったみなさまに感謝します。

自然エネルギー上小ネット

宇野親治

自然エネルギー上小ネットは今年からの活動で、「省エネ出前講座」は平成25年度上田市わがまち魅力アップ応援事業として認められ、各家庭・企業の省エネのアドバイスを出前で無料で行います。

今回はうえだ環境市民会議設立10周年記念事業に参加させていただき、活動報告の機会を与えて下さりまして、感謝申し上げます。田中優さんの基調講演も自身の経験を踏まえた、分かりやすい内容で素晴ら

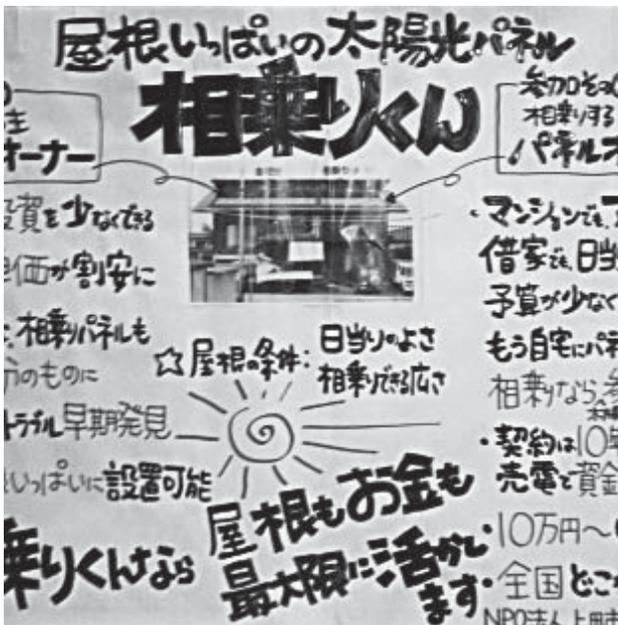


▲自然エネルギー上小ネット 宇野氏の発表

しかったです。私どももより一層、公民館・自治会・協議会・企業を通じて省エネ・CO₂削減に貢献してまいります。ぜひ気楽に申し込みをお待ちしております。また今後とも各団体の発表の機会をお考えいただくとともに、交流を深められれば幸いです。ありがとうございました。

NPO 法人上田市民エネルギー

理事長 藤川まゆみ



▲ NPO 法人上田市民エネルギーの展示

わたしたち上田市民エネルギーでは、《太陽光パネル相乗りくん》という仕組みで市民が力を合わせて自然エネルギーを増やしながら、社会のあり方や地球環境を明るく変えていこうと活動しています。多くの方が関わって、みんなで育てていくことが大切だと考えて進めてきました。

田中優さんがおっしゃっていたようにある程度の割合の人が変われば、社会の流れは勢いをつけて変わりそうです。上田には

もう具体的に動いている方がたくさんいてその流れは起き始めていることが今回の会で伝わってきました。考え方ややり方は違っても、目指している方向は同じであれば、お互いに応援し合って手をつないで力強く新しい波を起こしていけるはず。顔を合わせて報告し合う機会は大切ですね。社会を変えるカギはコミュニケーションではないかと思っています。

上田市レジ袋削減推進連絡会

山口春香

10年の時の流れの中でさまざまな問題が浮上し、その問題に取り組み、学習と実践を重ね、更に啓発活動を進めて参りました。

中でもCO₂の削減に取り組み、誰でもできる「ごみの減量」「マイバッグ持参運動」「省エネ」等、「市民」「事業者」「行政」の三者が協働して実践しているところです。現在マイバッグ持参率は上田市平均53.3%、県民の全調査は平均52.2%で



▲上田市レジ袋削減推進連絡会 山口氏の発表

したが、県民の目標である早期達成 80% を目指して頑張りましょう。次世代の子どもたちのために !!

次に今回の事業については、「環境をよくしたいひと大集合」をテーマに、田中優氏の基調講演をはじめ環境保全活動に関わる団体、NPO、企業の賛同を頂き、「活動報告、交流会」と意義のあることだったと思います。

今後も横の連携を深め、自然豊かな住みよい上田市を構築して行くことは重要であり、これを機に必要なに応じてこの会を開催することが望ましいと思われまます。次回については、企画の段階で他団体の意見を頂くのもよいのではと思います。

蚕都くらぶ・ま〜ゆ みんなの家プロジェクト

リーダー 竹内秀夫

持続可能な地域づくりの一環として、様々な機能の拠点をその拠点にふさわしい地域につくり、それを人と人のつながりでネットワークして行こうとしています。今回は交流の場として、築 60 年の古民家を再生して誰もが使えるみんなの家をつくっています。古くなった屋根瓦約 2,000 枚を使って土間をつくったり、床下の断熱材に珪藻土を敷き詰めたりしました。また、屋根瓦の下の粘土や取り壊した壁土は小窓にワインの瓶を並べてその隙間を塞ぐのに、木質の廃材はロケットストーブの燃料や浄化システムの木質チップとして今後使う予定です。できるだけゴミを出さないことと土に返る物を使うよう心がけています。ラ



▲蚕都くらぶ・ま〜ゆ みんなの家プロジェクトの展示
イフラインである電気、ガス、上下水道を使わないことも大きなテーマで、自立型のモデルになることを夢想しています。

交流会では興味のある方がみえ、今までの作業の内容や家というのは大工の物ではなく、誰もがつくれるものであることを説明すると、壁塗りの経験がある方などは、大きく頷いていました。また、みんなで作業をすることで、たくさんの人に愛され続ける建物になることと思います。たくさんの人に知って貰うことは、自分たちの活動が広がるチャンスでもあり、持続可能な地域という目的にまた一歩近づいたという気がしました。

別所線の将来を考える会

竹田貴一

田中優さんのすばらしい基調講演のあと、休憩を挟んでの活動発表報告会は、大変勉強になりました。お名前は聞いたことがありましたが、内容については知らない団体のみなさんのお話を聞くことができ、参考になりました。



▲別所線の将来を考える会の展示

当会の会員も遠くは神奈川県より参加してくださり、交流会のときなどは、参加者の質問に答えて下さっていました。当会も平成15年12月の発足以来、10年の節目を迎えます。現在、北は北海道小樽市から南は九州福岡市までの会員が活発に行動しております。また、2月15日には、10周年企画として、貸切特別列車「別所線満喫号」を走らせます。是非、ご乗車下さい。

次回もまた、多くの団体が集い、さらに大きな会として、環境について語り合う場としても、各々の団体が新たに出発できるようなイベントとしていかれることを望みます。最後に主催者側の一人として、ご参加ありがとうございました。宜しく願い致します。

NPO 法人 信州元気塾

施設長 栗本一生

この度は「地球の未来を語ろう 環境をよくしたいひとひと大集合」に参加させて頂き、ありがとうございます。

私共、特定非営利活動法人 信州元気塾は「障がい者の生きがいと生活の安定のために リサイクルの輪で自立を実現するために！」をスローガンに掲げ、平成23年12月に発足致しました。昨年8月には障害福祉サービス事業所「ほっとタイム常田」を開設し、障害を持たれた方々にパソコン等の解体・分別作業を行って頂いております。

私共のような未熟な団体にとって、今回このような機会に活動の様子をパネル展示させて頂けた事は、多くの市民の方に知って頂くチャンスであり、大変有意義であったと感謝しております。環境保全への取り組み方は各団体でそれぞれ違いますが、お互いの活動を知り刺激し合える場として貴重な機会であると考えております。今後ともぜひ継続して報告会を開催して頂けると大変有難く存じます。



▲ NPO 法人 信州元気塾の展示